

こなん水辺公園ニュース

2010年5月号(通算第6号)

こなん水辺公園解説員グループ編集

ミニ植物園の整備をしました

5月23日に、昨年からの整備中の管理学習棟脇のミニ植物園の整備をおこないました。今回は配置を少し変えて、昨年枯れてしまった鉢の日当たりを良くしました。また、少し目立つ名札を付けました。徐々に植物を増やしていき予定です。すでに、ヒツジグサやアサザの鉢は順調に育っていますので、こなん水辺公園にお立ち寄りの際は、是非御覧ください。

6月下旬頃からは、アサザの花が咲き始めます。ヒツジグサも少し遅れて咲き始めます。本来の自生のヒツジグサの花の大きさを見ることができます。

朝に咲くアサザ、昼に咲くヒツジグサ、そうした植物の生態の違いも見ることができます。



また、昨年ミズアオイを移植した、管理学習棟裏の水路に、今年もミズアオイの群生をつくろうと、水路の素堀と苗の移植をおこないました。この苗は、昨年この水路で花を咲かせたミズアオイから採取したものです。冬の間、水を張ったバケツに実を浸けておいたところ、たくさんの芽を出しました。今後何回かに分けて移植する予定です。



コクワガタ発見



こなん水辺公園にはヤナギの木がたくさんあります。ヤナギの木は樹液を多く出します。

たぶんその樹液を求めてやってきたのが、もともと生息しているのかわかりませんが、コクワガタの成虫を見つけました。

5月下旬にしては、気温が著しく下がりが、動けなくなっていました。

これから夏にかけて、いろいろな虫がヤナギに集まってきます。こなん水辺公園は、水辺だけでなく、陸にもおもしろいことがたくさんありますよ。

ただし、ヤナギの樹液には、時々スズメバチもやってきますので、十分に注意してください。肌を露出しないことが一番、まずはゆっくりと観察して、まわりにどんな生きものがいるか良く把握してから、樹に近づいてください。土、日の昼間は自然解説員がおりますので、注意事項を聞いてください。

恒例の田植え

30日はこなん水辺公園の田植えでした。市民が参加して、泥田の中に入って手植えを体験しました。

中には初めてのご家族もいて泥の感触を楽しんでいました。

田植えが終わった後は、水路で足を洗ったり、ついでにメダカを観察したり、芝生に生えているシロツメクサでリングづくりをしたりと、みなさん、それぞれの方法で、こなん水辺公園の楽しみを見つけていただいたようです。

この田植えは、毎年金沢市緑と花の課が参加者を募集しています。新聞の市の広告欄を注意深く見ていると、春頃情報が出ていますので、今回参加できなかった方は、来年トライしてみてください。また、このイベントには、東蚊爪の生産組合のみなさまが協力しています。

余った苗を持ち帰る人もいて、家でバケツで育てるそうです。秋には餅米がとれます。



5月の生きもの情報



オオヨシキリの季節 5月上旬からオオヨシキリがやってきて、こなん水辺公園はとても賑やかです。水辺のヨシ原に巣を作り繁殖しますが、5月は、雄の陣地争いと雌へのアピールタイムです。自分が確保した縄張りを守りながら、雌を呼び込むために一生懸命にさえずっています。この時期は目立つところに出ていますので、観察のチャンスです。



クサガメの小亀 男の子とお母さんが見つけました。昨年生まれのものが越冬して出てきたのか、このサイズの小亀を、こなん水辺公園では時々見つけることができます。この公園でクサガメが繁殖している証拠です。捕まえて観察した後は、元の場所に逃がしてやってください。カメは、見かけによらずとてもデリケートで弱い生きものです。やさしく丁寧に接してください。

発行 2010年5月30日

制作 こなん水辺公園解説員グループ（NPO法人河北潟湖沼研究所内）

連絡先 〒金沢市二口町八58 河北潟湖沼研究所 TEL.076-261-6951